

ドイツ語圏文化学講演会 学部生歓迎！！

# 劇作家ホルヴァートにおける難民問題

——茶番劇『行ったり来たり』東京公演(2024.3)を中心に——

講演者：大塚直 愛知県立芸術大学音楽学部教授

日時：2024年7月4日(木) 18:15-19:30

場所：名古屋大学 東山キャンパス 文学部本館1階  
110会議室 (入場無料、予約不要)

[https://www.nagoya-u.ac.jp/upload\\_images/campus\\_map\\_jp.pdf](https://www.nagoya-u.ac.jp/upload_images/campus_map_jp.pdf) B4③



## 講演内容：

本講演では、2024年3月に劇団「東京演劇アンサンブル」が公家義徳演出により本邦初演した劇作家エデン・フォン・ホルヴァート(Ödön von Horváth, 1901-1938)の茶番劇『行ったり来たり』を取り上げます。

本作品は、ヒトラーが権力を掌握して多くの政治的亡命者が生まれた1934年、ユダヤ系の音楽家ハンス・ガルと共同制作して、スイス・チューリヒ劇場にて初演された政治難民をめぐる音楽劇です。ナチ時代に人権もアイデンティティも突如奪われた政治難民めぐって、入管法改正が行われた現代日本とも重なる問題として捉え、改めて国境や境界線の意味について考察してみたいと思います。

また実際の上演映像を交えながら、海外戯曲を翻訳する苦労話や、知られざるドラマトゥルクの仕事についても紹介します。

講演者プロフィール：大塚直 (OTSUKA, Sunao) 慶應義塾大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学後、ドイツ・コ



ンスタット大学に留学。帰国後、東京外国語大学大学院にて劇作家ポーター・シュトラウスに関する研究で博士号(学術)を取得。論文博士。専門は近現代ドイツ語圏の演劇・文化史。著書に『メディア論』(共著)、『演劇インタラクティヴ』(共著)、『ドイツ文学の道しるべ』(共著)など。翻訳者・ドラマトゥルクとして舞台上演の実践にも携わる。新国立劇場でローラント・シンメルプフェニヒ『昔の女』、『つく、きえる』、東京演劇アンサンブルでポーター・シュトラウス『忘却のキス』、エデン・フォン・ホルヴァート『ウィーン森の物語』などの翻訳を手掛ける。現在、愛知県立芸術大学音楽学部教授、及び名古屋大学、椋山女学院大学、各非常勤講師。

名古屋大学 文学部・人文学研究科 ドイツ語圏文化学

問合せ先：古田香織 [furuta.kaori.j7@f.mail.nagoya-u.ac.jp](mailto:furuta.kaori.j7@f.mail.nagoya-u.ac.jp)  
山口庸子 [k46439a\[at\]nucc.cc.nagoya-u.ac.jp](mailto:k46439a[at]nucc.cc.nagoya-u.ac.jp)  
[at]を@に変えてください。

Facebook: <https://www.facebook.com/deutscheKulturNagoyaUni/>

